

2021 年度第 2 回台湾香港青森りんご友の会発言録

日時：2021 年 12 月 7 日（水）午後 2 時 30 分～※日本時間

会場：アップルパレス青森

台湾及び香港出席者は各地からオンラインによる出席

出席者：別添のとおり

開会

青森りんごの輸出状況について

青森県観光国際戦略局国際経済課 齋藤直樹 課長

※資料にもとづき説明

青森りんご消費宣伝事業について

一般社団法人青森県りんご対策協議会 高澤至 事務局長

※資料にもとづき説明

産地側挨拶：青森県りんご対策協議会 会長 加川雅人

- ・台湾香港青森りんご友の会の会員の皆様、産地の関係機関の皆様にご多用のところ参加いただき感謝申し上げます。
- ・10 月にもこの情報交換会を開催し、友の会会員の皆様から情報提供いただき、また産地側からも流通状況、消費拡大施策等についてお伝えし情報共有している。
- ・本来であれば 12 月は産地から台湾香港に赴き販売環境について直接お伺いするところだがいまだ渡航が難しい状況である。
- ・本日はオンラインでの開催ではあるが、最需要期である春節に向け産地と消費地と連携し青森りんごをしっかりと販売していく意思統一を図りたいと考えている。
- ・本日の情報交換会は忌憚のないご意見をいただき、有意義なものとするためご協力くださるようお願い申し上げます。



青森県挨拶：青森県知事 三村申吾 様

- ・「台湾青森りんご友の会」及び「香港青森りんご友の会」の皆様为本日の情報交換会に参加いただき青森県民を代表して心から感謝申し上げます。
- ・世界各国のりんごが流通する中、美味しさや品質の高さから青森りんごを選んでいただき、台湾及び香港での青森りんごの輸入・販売に尽力を賜り重ねて御礼申し上げます。
- ・本年産りんごは、夏場の干ばつにより小玉傾向だが、糖度が高く美味しく仕上がっており、10月販売のトキは台湾や香港でも食味が良いと好評だったと聞いている。
- ・一方、産地では市場への入荷量が少なく価格が高値で推移していることに加え、国際的



な物流の混乱が続いていることから、輸出にとっては厳しい環境にあると認識している。

- ・私はこれまでも台湾や香港に出向き、消費者の皆様と直接触れあいながら自信と誇りを持って青森りんごをPRしてきた。

本年は、現地への渡航制限がされる中でも青森りんごの魅力をたくさんの皆様に伝えたいとの思いで、輸出が本格する10月から青森県りんご対策協議会と連携し、台湾に開設した模擬りんご園と青森をオンラインでつなぐイベントや、「トキ」を前面に押し出したテレビCMにより、青森の地からりんごをPRしてきたところである

- ・これから旧正月にかけ販売が本格化するが、今後も関係団体と連携しながら、テレビやソーシャルメディアを活用したPRを始め、量販店等での試食宣伝など切れ目のないプロモーションを強力に展開していくので、青森りんごの輸出促進に引き続き支援と協力をお願いしたい。
- ・本日の情報交換会が有意義なものとなりますことを期待するとともに、皆様の御健勝、御活躍をお祈り申し上げ挨拶とします。

台湾側挨拶：全青股份有限公司 総経理 陳清福 様

- ・三村知事はじめ加川会長、青森の皆様こんにちは。
これから流通状況についてお伝えするが少し時間が長くなることをお許しいただきたい。

- ・2021年産の日本りんごの輸入状況は既に8割方確定している。

- ・10月中生種トキは非常に順調に販売でき、その理由1点目は価格である。

非常に台湾で販売しやすい価格帯であった。

- ・2点目の理由は、先ほど三村知事からもあったように今年産りんごの食味の良さである。
台湾の消費者に甘みの強い食味が受け入れられていることから販売が伸びた。

- ・3点目の理由は、南半球産リンゴの品種がふじに限られたため、日本産りんごのトキが甘い食味により他国産よりも台湾消費者に選ばれたことが挙げられる。

- ・またシナノスイートについても、販売しやすい価格帯であったことから台湾市場で引き合いが強かった。

- ・アメリカ産の早生ふじも出荷が重なり競合したが、シナノスイートの食味の良さにより日本産りんごの方が消費者の受けが良く順調に販売できている。

シナノスイートを仕入れた台湾業者はすべて完売している状況である。

- ・名月については、人気品種であるトキと印象が重なることから入荷当初は好調であったものの、後半はアメリカ産ワシントンアップルの出荷にぶつかり押され気味となって販売に影響が出ている。

- ・ここまでの3品種は比較的順調に推移してきたが、春節の需要期に向けサンふじ及び有袋ふじのメイン商材の動向が今後注目される場所である。

- ・アメリカ産ふじの正式な出荷スタートは11月中旬～下旬で順調な販売、台湾消費者の支持を集めている。

- ・11/26到着以降の販売については若干動きが鈍くなっているようである。

- ・日本産有袋ふじは10月下旬から入荷が始まっているが、入荷量が少ないため市場全体の動向に影響を及ぼしていない。



- ・現在の台湾のりんご市場は、日本産サンふじ、アメリカ産ふじ、韓国産ふじが販売の主流となっている。
- ・ご承知のように世界規模で輸送コスト増が続いており、すべての輸入産品が価格高の状態となっている。
農産物に関しては上げ幅に限度があるものの、全体の販売自体には少なからず影響が出ている。なぜなら農産物は代替がきく商品だからである。
- ・今年のサンふじはコスト上昇分（およそ 1,400 円程度）をカバーして販売をしていかななくてはならない。しかしながら、日本円安の為替により 1 割近く価格面で後押しとなっている面がある。
為替の影響がなければ、現在の価格に 10% 以上の上乗せして販売しなければならないところであった。
- ・アメリカ産ふじもコスト増のあおりを受け 1~2\$ 程度の値上げ販売している。
- ・アメリカ産りんご仕入れについてはドル建て決済のため、結果的には 4 ドル程度の圧縮が図られている。
- ・価格面だけで比較すると韓国産ふじは日本産りんごの半値で販売している状況である。
- ・コロナにより販売の先行きが不透明な状況であるが、前述の内容はここ 2 週間の台湾でのりんごマーケットを説明したものである。

台湾市場情勢説明 1：台湾瓦克國際股份有限公司 李昭志 氏

- ・実をいうと毎年 11~12 月は台湾の輸入果実の販売が一番落ち込む時期である。
今年も例外なく消費が冷え込んでいる時期であった。
- ・台湾市場関係者からは「年々この時期の販売環境が悪くなっている」との話を聞いている。
- ・コロナの影響もあり台湾経済全体が下向きになっていることも挙げられる。
- ・去年は台湾政府が国民に対し 3 倍買い物ができるチケットを発行し、今年はさらに 5 倍買い物ができるチケットを配布する支援策が行われている。
- ・経済や市場マーケットが冷え込んでいる状況ではあっても春節需要は発生する。
- ・12 月に経済全体が上向きになることを期待している。
- ・今年産りんご販売でのプラス要因は先ほど来から話がある為替である。
- ・産地の価格高については不可避であることを理解しているので、とにかく産地側には品質管理の徹底をお願いしたい。
- ・この販売環境を攻略し良い販売結果で新しい年を迎えたいと考えている。



台湾市場情勢説明 2：日豪貿易有限公司 黄 吉利 氏

- ・先ほど来から説明があるように、台湾内のりんごマーケットはゆっくりとした展開で推移している。
- ・韓国産リンゴはグレードの観点から日本産りんごと比較し難く、競合品目という意味ではあまりバッティングしないと思っている。
日本産りんごの最大の競合品目はやはりアメリカ産リンゴである。

- ・11月までは船便の問題からアメリカ産の数量はさほど多くはなかったが、12月以降は徐々に潤沢な数量が台湾マーケットに出回り始めると思われる。
- ・アメリカ産リンゴについては、産地価格は例年相場どおりであるが輸送コスト増が価格に反映され販売価格は上がっている。
- ・アメリカ産リンゴ輸入は計画通りに進行しているが、日本産りんごは産地価格高により出荷数量が伸び悩んでいる。
- ・これまでの話では日本産りんごの消費が冷え込んでいるとの内容ではあるが、継続的な青森りんごのプロモーション展開が功を奏し日本産りんごのイメージが確立されており、1月春節前には底堅い需要があると見込んでいる。

香港市場情勢説明1：香港金久有限公司 山本和樹 氏

- ・香港市場でも今現在、名月が終盤を迎えつつあり今後王林を主体とした販売を行っていくところである。
- ・今年度の中秋節の時期が早かったためトキの販売には間に合わず9月後半は香港市場全体でトキが滞貨し値崩れを起こしている状況であった。
- ・一昨年に発生した黒星病やビターピットの品質面の不安を引きずっており、香港の業者は中生種の積極的な輸入に踏み込めないでいる。
- ・今年産りんごの品質は安定していることに加え、為替レートが価格面で後押しとなり、名月は比較的良い環境で販売できた。
- ・産地から王林の収穫量が少ないとの話を聞いている。
先週から王林が香港に入荷しているが、量販店等からの引き合いが強く価格見積もりの問い合わせがたくさんある状況。しかし、価格が高い王林はバイヤーや香港消費者も慣れていないため販売に影響が出るかもしれない。
- ・2年前からスマートフレッシュ処理された王林の出荷が増えてきており、逆に普通冷蔵品が品薄になっている。
ガス冷蔵品が年明け1月中旬に出荷されるとの話を聞いているが、昨今の船便遅延などの影響を考慮し11~12月からでも積極的に出荷していかないと春節の需要期に間に合わないと推測している。最需要期に王林の数量が足りなくなることを懸念している。
- ・弊社では春節以降3~5月にシェアが高いため、スマートフレッシュ処理商品が増えていることは大きな期待材料となっている。
- ・9月19トン（金額6,500千円）、10月41トン（15,170千円）、11月78トン（32,000千円）入荷実績である。
今後春節以降も扱いシェアが増えていくので、数量金額ともに前年を上回る実績を残せると考える。（弊社で香港全体の12~15%のシェア確保を目指す）
- ・今年産は香港全体で7,000~8,000トンの入荷を見込むが、王林が大玉傾向で数量減の要素が計画数に大きな影響を与えるかもしれない。
5月時点で販売数量を確保できないならば8,000トンの計画数の達成は厳しくなってくると思われる。
- ・今年産は単価高のため、輸出数量よりも輸出金額に注目していくという点ではプラス要因であると考えます。



・次年度はコロナも終息に向かい香港への渡航プロモーションが実施可能となることを期待している。

その際はこれまで大々的なPR宣伝ができなかった分、積極的なPRを実施したいと考えているので香港向けに重点的なプロモーション予算の確保をお願いしたい。

産地から質問（要望）：一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長 丹代金一

- ・産地の情報では今年の王林は小玉傾向にあり、サビ果が多いと聞いている。良品以外の展開でこれらをしっかり香港で販売していただきたいと考えている。
- ・王林だけで香港向けの輸出数量を増やしていくことは難しいと考えており、本県産りんごの主力であるサンふじの販売についても、今後に向けしっかり需要を作っていただきたい。

香港金久 山本氏

- ・令和2年産販売からサンふじの積極販売に着手しているが、販売時期を4月としたところ品質面でのクレームが多く（蜜褐変）失敗した経緯がある。今後の販売戦略としては、1~2月に普通冷蔵サンふじ展開、3月以降にスマートフレッシュ処理された王林を販売するといったように品種リレーをしっかりと確立する必要があると考える。しかしながら、旧正月前の需要期に一番人気である王林の販売を抑えてサンふじに切り替える商談は非常にハードルが高いと思われる。1~2月に王林と並行してサンふじを販売していく商談を進めていきたいと思っている。

産地から 青森県りんご対策協議会 加川会長

- ・今年産りんごは非常に味が良く、食べていただくことで必ずリピートに結び付くと自信をもって出荷している。台湾香港の会員の皆様には是非、春節の需要期に向けて積極販売をお願いしたい。

総括（青森県りんご対策協議会 副会長 工藤 文明）

- ・台湾香港青森りんごの友の会の皆様には貴重な情報と意見を頂戴し感謝申し上げる
- ・皆様の意見を施策に反映させ消費者にしっかりPRし最需要期である春節に向けて良い販売環境が構築できるよう努力していく。
- ・10月会議でもお伝えしたように令和3年産青森りんごは台湾向け3万トン、香港向け1万トンの出荷を目指し産地一丸となって取組んでいくので引き続きご協力をお願いする。

閉会

台湾香港青森りんご友の会情報交換会 参加者

台湾側

※敬称略

会員	出席者
全青股份有限公司	陳 清福
台湾瓦克國際股份有限公司	李 昭志
馥農企業股份有限公司	李 婉禎
喬承企業有限公司	潘 昀謙
台灣新果國際有限公司	莊 宗翰
日豪貿易有限公司	黃 吉利
和新生鮮有限公司	陳 亭宇
益果興業股份有限公司	薛 筱凡
家福股份有限公司	鄭 載馨

香港側

会員	出席者
香港金久有限公司	山本 和樹
全農インターナショナル香港	金築 道弘

青森県側

所属・役職	氏名
青森県知事 (※リモート出席)	三村 申吾
青森県観光国際戦略局国際経済課 課長 (※リモート出席)	齋藤 直樹
青森県農林水産部りんご果樹課 課長	三上 道彦
一般社団法人青森県りんご対策協議会 会長	加川 雅人
一般社団法人青森県りんご対策協議会 副会長	工藤 文明
一般社団法人青森県りんご対策協議会 専務理事	森山 博幸
一般社団法人青森県りんご対策協議会 常務理事	雪田 徹
青森県りんご商業協同組合連合会 会長	高木 登
青森県りんご商業協同組合連合会 常務	工藤 幸久
全国農業協同組合連合会青森県本部代表 JA 組合長	大場 勉
全国農業協同組合連合会青森県本部 りんご部長	坂本 浩
一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長	丹代 金一
公益財団法人青森県りんご協会 会長	藤田 光男
青森県地方青果卸売市場協会 事務局長	大中 実
弘果弘前中央青果株式会社 代表取締役社長	葛西 静男
弘果りんご連絡協議会 会長	須藤 恵司
株式会社五所川原中央青果 代表取締役社長	木村 吉幸
株式会社津軽りんご市場 代表取締役社長	大中 徹
津軽りんご市場連絡協議会 会長	葛西 直人
各地区りんご対策協力会 会長	石田 博英
一般社団法人青森県りんご対策協議会 監事	佐々木隆彦
一般社団法人青森県りんご対策協議会 監事	斉藤 勝徳

通訳

有限会社運盈商事	鈴木 明達
----------	-------

令和 3 年産りんごの輸出状況について（財務省貿易統計）
（令和 3 年 1 0 月分まで）

令和 3 年 9 月から 1 0 月までの輸出量は 5, 6 4 2 トンで前年比 9 3 %、輸出額は約 2 2 億円で前年比 9 6 %となっている。

このうち、台湾への輸出量は 4, 2 1 2 トンで前年比 9 0 %、輸出額は約 1 6 億 5 千万円で前年比 9 5 %となっている。

また、香港への輸出量は 1, 1 6 5 トンで前年比 1 0 2 %、輸出額は約 4 億 4 千万円で前年比 9 5 %となっている。

令和 3 年産りんご輸出量(10月まで)

(単位:トン)

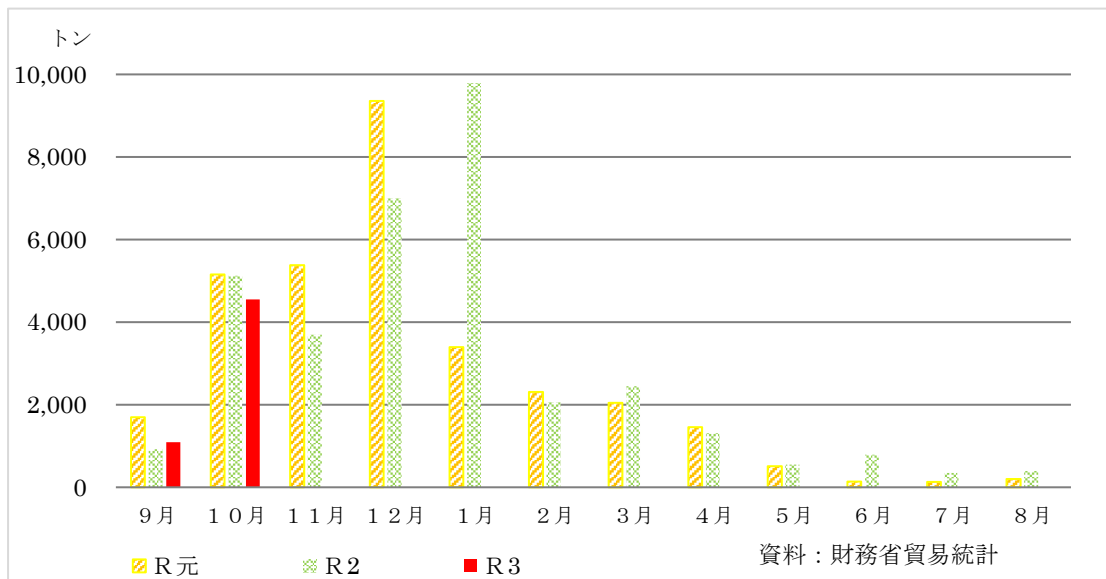
区分	令和3年産	令和2年産	前年対比
台湾	4,212	4,664	90%
香港	1,165	1,138	102%
その他	265	243	109%
計	5,642	6,044	93%

令和 3 年産りんご輸出額(10月まで)

(単位:千円)

区分	令和3年産	令和2年産	前年対比
台湾	1,649,899	1,727,791	95%
香港	443,148	465,263	95%
その他	109,650	91,418	120%
計	2,202,697	2,284,472	96%

月別りんご輸出量



一般社団法人青森県りんご対策協議会

【台湾】

1. 「2021年青森りんご園イン台北」イベント開催

日時：2021年10月9日（土）～12月26日（日）

会場：微風アトレ4F イベントスペース

概要：りんごの樹7本設置し青森りんご園を再現
展示コーナー、りんご収穫体験、

SNS投稿キャンペーン、週末イベント実施

イベント 10/9 オープニングイベント

12/3、12/25 クリスマスキッズイベント



2. 量販店等での販売促進活動

期間：2021年10月～2022年3月

業態：カルフル、JASONS、楓康超市、愛賣、
大潤發など延べ500店舗

3. 全聯スーパー ディスプレイコンテスト

全店舗1000店舗強での展開

4. 全家ファミリーマート（コンビニ）とのタイアップPR

- ・オリジナルギフトボックス、ステッカー展開PR
- ・公式アプリ・SNS等での広告掲出



5. 台湾メディア、SNSを活用した情報発信

- ・台湾テレビCM放映（三村知事出演）
- ・イベント等のニュース放映
- ・医療情報番組でのりんごPR（民視「医学大連盟」）
- ・テレビ番組「美鳳有約」での青森りんごPR
- ・SNS投稿キャンペーン、インフルエンサーによる情報発信



6. その他

- ・台湾医療関係者等へのりんご寄贈PR
- ・エバー航空とのタイアップイベントPR（2022年2月/崑山1914）



【香港】

1. 香港量販店での販売促進

期間：2021年12月～2022年2月

業態：イオン香港、一田百貨、パークンショップ等（延べ約350店舗）

※12月～1月に量販店店頭と産地を結ぶオンラインイベントを計画



2. メディアを活用した情報発信PR

- ・SNS（フェイスブック、インスタグラム等）情報発信
情報発信力のあるインフルエンサー起用
- ・りんごが当たる投稿キャンペーン

